

McAfee Web Protection

クラウド、オンプレミス、ハイブリッド環境に対応したWebセキュリティ

McAfee® Web Protectionでは、Web フィルタリングやマルウェア対策スキャンだけでなく、詳細なコンテンツ検査を行い、クラウド アプリケーションの使用方法をきめ細かく制御できます。また、エンタープライズセキュリティの要件に合わせて柔軟に配備できます。オンプレミス ソリューションの管理を必要としている方も、クラウド サービスの柔軟性と低コストを必要としている方も、この2つを組み合わせたハイブリッド環境を必要としている方も、McAfee Web Protectionを使用することにより、現状だけでなく将来的な変更にも対応できる Web セキュリティを配備できます。

Webの成長と進化に合わせて、Webを攻撃するマルウェアも高度化し、エンドポイントや重要データの脅威は増加しています。リスクが増加している現在、このような変化に対応できる最高のWebセキュリティが求められています。McAfeeは、今日のクラウド接続環境のセキュリティ要件を把握し、エンタープライズ指向の脅威セキュリティ保護のためにウェブセキュリティを包括的に提供しています。

オンプレミス、クラウド、ハイブリッド

マカフィーでは、非常に柔軟な配備を可能にし、将来の投資を保護するため、**McAfee Web Gateway**と**McAfee Web Gateway Cloud Service**のすべての機能を1つのソリューションとして提供しています：**McAfee Web Protection**。オンプレミスには、拡張性に優れたハードウェアで配備します。

仮想アプライアンスは、クラウドサービスとして配備し、この2つを組み合わせたハイブリッド環境では、エンタープライズクラスの柔軟性と可用性を実現できます。たとえば、組織は、ハードウェア、すなわち仮想 アプライアンスを利用して、本社従業員を保護し、リモート環境または移動中の従業員はクラウド サービスで保護できます。ブランチオフィスもサイト全体のトラフィックをクラウドサービスにルートすることで、通常一般公開されているすべてのウェブトラフィックを中央位置に処理して戻すマルチプロトコルラベルスイッチ (MPLS) ネットワークの費用を削減できます。いずれの場合も、McAfeeが提供する業界最高のマルウェア対策と包括的なWebフィルタリングを利用できます。ポリシーの同期を管理することで、オンプレミスからクラウドまですべてのプラットフォームで一貫したルール ベースのポリシーを施行できます。

主な特長

究極の柔軟性

- McAfee Web GatewayアプライアンスソフトウェアとMcAfee Web Gateway Cloud Serviceのすべての機能を1つの契約で使用できます。
- 現在のニーズだけでなく、将来の変化にも対応できます。
- 配備方法に関係なく、ユーザー数をベースにした購入価格

高度なセキュリティ

- McAfee Web Protectionは、McAfee Gateway Anti-Malware Engine をリアルタイムに使用して、特許取得済みの動作分析アプローチを提供することによりマルウェアゼロデイ攻撃を阻止します。
- McAfee Endpoint Security、McAfee Advanced Threat Defense、McAfee Cloud Threat Detection、McAfee Threat Intelligence Exchange、McAfee Cloud Data Protection、および McAfee Cloud Visibility—Community Edition への統合

データシート

クラウドインフラストラクチャー

Amazon Webサービス (AWS) のように、サービス (IaaS) 技術としてのインフラストラクチャーは、動的なエンタープライズスケーラビリティと柔軟性を提供します。セキュリティ担当者は、その環境で安全なクラウド負荷を実行できるようにウェブのセキュリティを維持する必要があります。McAfee Web Gatewayは、転送プロキシ、反転プロキシとしてAWS内に柔軟に配備できるほか、インターネットコンテンツアプリケーションプロトコル (ICAP) サーバーとして、エンドポイントのデータやアプリケーションを保護できます。組織は、さらに高度なマルウェア対策エンジンに、より高度なリスクトラフィックをルートすることができます。McAfee Web Gatewayデータ損失防止、または既存のデータ保護ソリューションを利用することで、潜在的に機密性の高い情報のデータフローを調べることができます。

高度なセキュリティ

McAfee Web Protectionは、様々な脅威検出技術を多層的に使用した高度な保護対策により、ゼロデイ脅威や既知の脅威を阻止します。McAfee Web Protectionは1つのプラットフォームで複数の技術を提供するので、最適な保護対策で組織のセキュリティを強化できます。また、多くの組織が必要とする多層型のセキュリティアプローチを実現します。詳細なコンテンツ検査により、ZIPファイルやPDF、グラフィックをスキャンし、潜伏するマルウェアを検出します。独立系調査機関のテストでは、マカフィーのWebセキュリティソリューションは99%以上の精度でマルウェアを検出・ブロックし、最高の結果を残しています。

この高度な多層型セキュリティでは次の機能を提供します。

- **包括的なシグネチャベースのウイルス対策によるリアルタイム検出:** 最先端のウイルス対策とMcAfee Global Threat Intelligence (McAfee GTI) ファイルレピュテーションにより、リアルタイムの検出を実現します。ウイルス検出からシステム保護までの時間が大幅に短縮されます。
- **McAfee GTIのWebレピュテーションとWebカテゴリゼーション:** McAfee Web Protectionは、レピュテーションとカテゴリによる強力なフィルタリング機能により、高度なWebフィルタリングと保護を行います。McAfee GTIは、McAfee Web ProtectionのWebフィルタリング技術を強化します。McAfee Labsが世界中から収集したデータの属性に基づき、インターネット上のすべてのエンティティ (Webサイト、電子メール、IPアドレス) にプロファイルを作成します。さらに、セキュリティリスクに基づいてレピュテーションスコアを割り当てるので、管理者は、許可または禁止対象に柔軟なルールを設定し、継続的な監視を行うことができます。コンテンツの動的分類により、以前に確認したWebサイトのコンテンツに不適切なカテゴリ (ギャンブル、ポルノ、ゲームなど) が追加されていないかどうか分析します。
- **ゼロデイ攻撃を阻止するコンテンツの動作分析を、リアルタイムで実行:** McAfee Web Protectionは、特許のアプローチを利用して、マルウェアゼロデイ攻撃を阻止し、機械学習をwebトラフィックのような列挙動作にリアルタイムに統合します。McAfee Web Protectionは、Webページのアクティブコンテンツをスキャンして、エミュレーションで動作の意図を予測し、ゼロデイ攻撃や標的型攻撃からエンドポイントシステムを保護します。

インバウンドとアウトバウンドの両方向の保護対策

- ポリシーエンジンルールに基づき無限にカスタマイズ可能なポリシーを組織のインターネットの使用に強制的に適用する。
- マルウェアなどの潜伏する脅威を迅速、効率的に検出する多層型のセキュリティ。
- ノートPC、Apple iOS、Google Android デバイスなどのリモートユーザーに対応したモバイルフィルタリング。
- 数十万のクラウドアプリケーション制御。

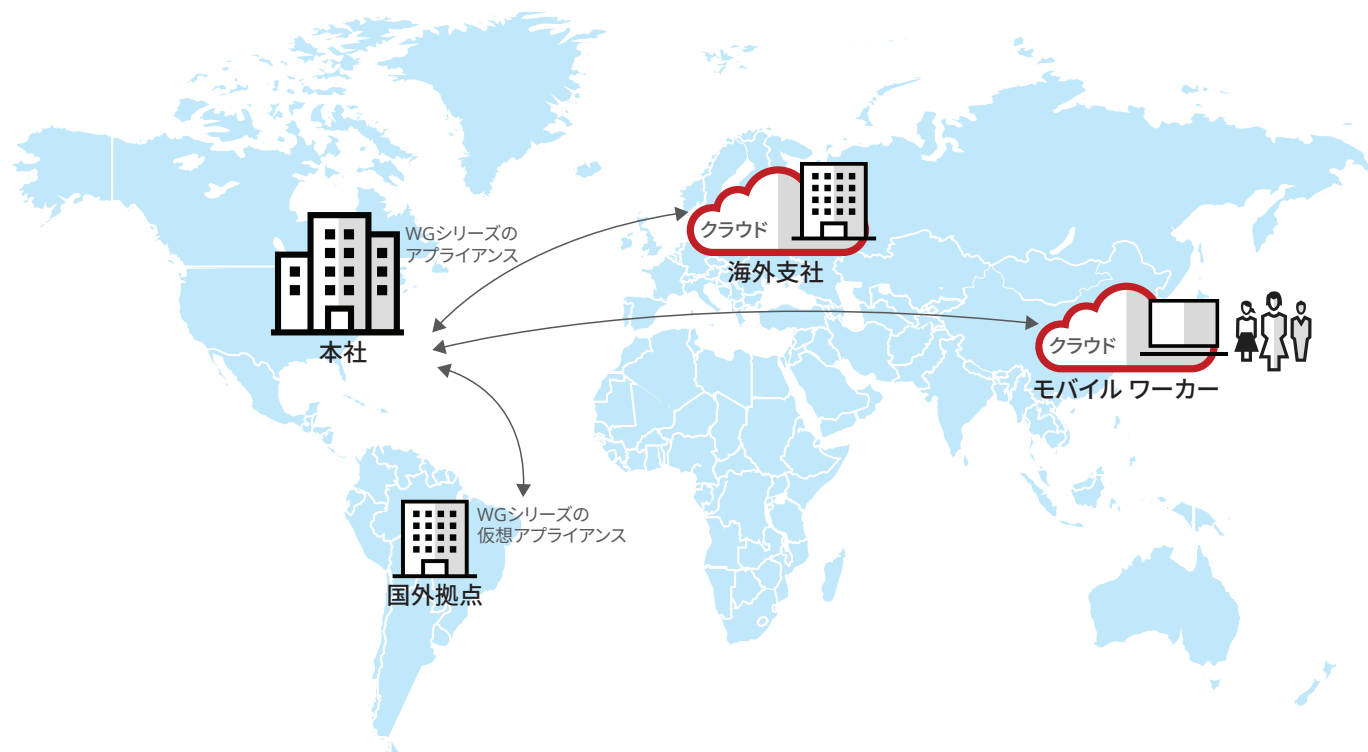


図1. McAfee Web Protectionは、非常に柔軟な配備が可能です。オンプレミス、仮想環境、クラウド、ハイブリッド環境にアプライアンスを配備し、高可用性を実現できます。

クラウドアプリケーション制御

クラウドアプリケーションの移行により、シャドウITが増えています。セキュリティ担当者は、未承認のクラウドアプリケーションを追跡できないと、データ漏えいが発生し、金銭的な被害を受けるリスクが高まります。McAfee Web Protectionは、すべてのWebトラフィックの完全な可視性を実現し、数十万のWebアプリケーションを制御できます。アプリケーションリスクやユーザープロファイルなどのビジネス条件を使用してアクセスを管理制限できます。

Protection Everywhere

職場の分散化やモバイル環境への移行が進む現在では、このような環境にもWebフィルタリングとWeb保護をシームレスに展開する必要があります。McAfee Web ProtectionやMcAfee Endpoint SecurityなどのMcAfee Client Proxyを使用すると、モバイルユーザーのWebアクセスを保護し、制御できます。このゲートウェア対応の統合ソリューションは、WebトラフィックをオンプレミスまたはクラウドのMcAfee Web Protectionソリューションに自動的にルーティングし、ユー

進化する脅威状況

今日のWebの脅威は巧妙化し、スパム、電子メールリンクのフィッシング、マルバタイジング、ソーシャルメディアなど、複数の方法を利用して攻撃を仕掛けてきます。また、従業員が日頃使用しているファイルや種類が利用される場合もあります。McAfee Web Protectionは様々な経路に対応できます。

- マルウェアサンプルの70%から90%は、組織特有です。
- McAfee Labs 識別子の新しいマルウェアは一分に平均で300回以上、つまり1秒間に約5回検出しています。¹

1. McAfee Labs

データシート

ザーの位置に応じて、ポリシーを完全に施行します。AirWatchやMobileIronなどのモバイルのデバイス管理パートナーを統合することにより、エンタープライズは、エコシステムの他のデバイスのwebセキュリティポリシー同様にApple iOS、Google Androidデバイスを保護します。

統合レポート

McAfee® ePolicyOrchestrator® (McAfee ePO™) ソフトウェアは、エンタープライズセキュリティ管理プラットフォームとして、広く利用され、高く評価されたMcAfee Web Protectionのソリューションです。McAfee ePOでは、様々な情報を統合して利用できるので、問題を迅速に識別し、コンプライアンス対応を改善することができます。McAfee ePOソフトウェアでは、McAfee Content Security Reporter拡張ファイルにより詳細なWebレポートを作成できます。

McAfee Content Security Reporterを使用すると、組織は、McAfee Web Protectionのオンプレミスからクラウドまで統合レポートインフラストラクチャーの配信プラットフォームからデータを収集できます。この情報とツールにより、組織のWeb利用状況を迅速に把握し、コンプライアンス対応や脅威の検出、問題の隔離を行うことができます。また、不適切なWebアクティビティを報告し、フィルタリングの設定を調整してWeb使用ポリシーを施行できます。ダッシュボードとドリルダウン機能により、Webトラフィックをオフラインで分析できます。必要な機能が簡単に利用することができます。McAfee Content Security Reporterは、リソースを集中的に使用する処理を外部の独立したレポートサーバーで実行し、データを保存するため、既存のMcAfee ePOサーバーに負荷をかけることはありません。世界中でビジネスを展開する企業でも、レポート要件に合わせて拡張することができます。

詳細についてはwww.mcafee.com/webprotectionをご覧ください。



〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂1-12-1
渋谷マークシティウエスト20F
Tel. 03-5428-1100(代表)
www.mcafee.com/jp

McAfee、McAfeeのロゴ、ePolicy Orchestrator、McAfee ePOは、米国法人McAfee, LLCまたは米国またはその他の国の関係会社における登録商標または商標です。その他すべての登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。Copyright © 2017 McAfee, LLC. 3641_1017
2017年10月